

私とテニス

恩多クラブ 川路育子

私と主人の出会いは、大学のテニス同好会（軟庭）でした。それはもう昔のことなのでその頃の話はいいことにして、今回は硬式テニスとの出会いを書きたいと思います。

私がテニスを始めたのは、市報に載った太田先生による“初心者講習会の募集”の記事がきっかけでした。まだ子供も4才と2才でしたが、飛びつく思いで申し込みをしました。その時のコーチが吉永さんと武田さんです。その講習会の後に、阿部川さん、吉永さん、武田さん、松本さんをコーチに迎えて金曜会が発足しました。子供が小さかったりもろもろの事情で週に1回かせいぜい2回できればいいくらいでした。なかなか上達しなくて何度「やめてしまおう」と思ったかしれません。そのころの我家ではテニスの話はタブーで（テニスの話をするとひがむ人が約1名いたので）スクールに入るなんて内緒の話でした。それでもどうにか細々とテニスを続けてこられたのは、テニスが好きだったことと、“テニスをやっているから他のことも頑張ることができんだ”と思えたからだと思います。

そんな中で子供も成長し、上の娘が5年生になった春、「お母さん、私お母さんと一緒にテニスしたい」と言ったのです。その言葉をきっかけに我家でのテニスの位置づけが変わってきたのです。娘にラケットを買い与え、ジュニアのスクールに入会させました。今まで何度となく主人に「ちょっとスクールに通えばあなたならすぐに打てるようになるからはじめたら？」と誘っていたのに「仕事が忙しくてテニスなんかやってるひまはない。」と、日曜日はテレビを見ながらごろ寝をするだけです。そんな主人が、娘がテニスを始めたものだから、“ここで遅れをとっては自分だけ仲間はずれになってしまう”と考えて（？）その年の9月からスクールに通い始めたのです。もともとテニスが好きで学生時代には勉強よりもテニスに熱中していた人だから、一旦テニスを始めたらもうとまりません。

週1回のスクールでは物足りなくなるのは時間の問題でした。オートテニスにも行きましたがそれも何度も通うものでもないし、どこかテニスのできる場所はないかと考え、市民テに入れてもらうことになったのです。長年私は、市民テは、お上手な方ばかりの集まりだから私などは到底入れるものではないと思っていたので決心がいました。それでも2人で入れればこわくないと市民テに通う日曜日が始まりました。主人も私も無我夢中でテニスにのめり込んでいった1年だったと思います。（特に主人は）。卒業以来運動といえれば付き合いゴルフをするくらいだったのに、テニスを始めてからの運動時間たるや本人の身体が一番びっくりしていることでしょう。いま現在の心境は“もう5年早くはじめていたらなあ”です。自分では若かりし学生時代の面影を描いて打っているのに、自分のイメージとは別の現実がそこにあるのです。（だから私がテニスやったらと言ったときに始めれば良かったのに）。私にとっても、この1年がもっと早く来れば良かったと残念でなりません。

今では、テニスはしっかりと我家で市民権を得て、専ら日曜日の夕食の話題はテニスです。市民テ2年目で娘2人も入会し、夢は家族4人でダブルスを楽しむこと。主人は、私ではなく娘と組むミックスを夢見ていることでしょう。これで我家の将来は、懸念された父親と娘の断絶はなくなり明るくなりました。これも一重に私達家族を暖かく仲間に入れて下さった市民テの皆様のおかげと感謝しています。



編集 後記
 はじめてのガット。部長さんをはじめ関係者に
 ご心配をおかけしながらなんとかかんとかでき
 ました。今度自分でもワープロを……